

# 安全性報告

コスモ石油グループでは、「現状の安全活動で十分か」「自分たちの安全を確保するにはどうすればいいか」といったことを常に考えながら、安全のレベルが確実に向上する安全管理体制の構築をめざしています。



## 安全への取り組み

全社をあげて、原点に立ち返った自主保安活動を実施し、安全管理レベルの向上をめざします。

### 安全に対する考え方

#### － 爆発・火災事故が見直すきっかけに －

2006年4月16日、千葉製油所で爆発・火災事故が発生しました。コスモ石油グループにとって、この事故が、安全に対する意識を、改めて深く考えるきっかけとなりました。従来から実施しているさまざまな安全に関わる活動が現状のやり方で十分なのか、自分たちの安全を確保するためにはどうすればいいかといったことを考えながら、安全のレベルが確実に向上するような安全管理体制の再構築を図っていくこととしました。

特に、製油所の安全管理体制の再構築に際しては、2006年に「チェンジ21活動推進委員会」を設置し、社内のさまざまな部門が委員会に参加し、多角的な視点から抜本的な見直しを図ってきました。

コスモ石油グループ全体での安全管理体制の構築にあたっては、2005年度に「第1次連結中期安全計画」を策定し、各部門において安全管理体制の仕組み構築等に取り組んできました。その結果、生産および物流部門では安全管理システムの構築や月次目標管理を行うなど安全管理の仕組みが構築できました。2008年度からは新たに「第2次連結中期安全計画」をスタートさせ、各部門において事故ゼロをめざした活動に取り組むことで、より強固な安全管理体制をめざします。

詳細情報●安全実績（操業事故、労働災害、製油所労働災害発生件数推移）

web <http://www.cosmo-oil.co.jp/csr/safe/index.html#safetydata>

### コスモ石油グループの安全管理組織

#### － 総合安全対策本部 －

コスモ石油グループは、生産、物流、販売、研究開発および事業開発等の各段階における安全を確保するために、全社的な安全管理組織として、総合安全対策本部を設置しています。安全環境部担当役員が本部長となり、社内各部門のメンバーで構成しています。

この総合安全対策本部では、連結中期安全計画等の安全管理に関する重要事項の調整や審議、各事業所での安全管理実施状況の把握を行っています。また、事業所等に対して安全査察を行い、安全管理状況を確認しており、必要に応じて改善勧告や提言を行っています。

安全管理活動の実績報告・評価や安全査察の結果報告等は、原則年1回開催している総合安全対策本部会議で報告するとともに、経営執行会議へ上程し、その資料は全社員に公開されています。



総合安全対策本部会議

## 連結中期安全計画

コスモ石油グループでは、グループ会社全体で一体となって安全レベルの向上をめざすため、2005年度より連結中期安全計画を策定しています。生産、物流、販売、研究開発および事業開発等の各段階に加え、エンジニアリング部門等でも、この連結中期安全計画を策定して取り組んでいます。

2007年度は2005年度から始まった第1次連結中期安全計画の最終年度でした。第1次連結中期安全計画では、「コスモ石油グループとして統率された安全管理体制を構築し、自主保安の取り組みにより、さらなる安全操業・安定供給レベルの向上を目指す」ことをビジョンとして取り組みました。

2008年度からは、新たに第2次連結中期安全計画をスタートしました。「事故ゼロを目指した活動を積極的に推し進め、お客様、社会から信頼され、社員が誇れる安全・安心なコスモ石油グループを創り上げる」ことをビジョンとし、グループ共通のテーマを設定した取り組みを継続させるとともに、目標を定量的に定めることでスパイラルアップをめざします。

## 物流における取り組み

陸上輸送に対する安全意識の高揚と事故災害の撲滅を図ることを目的に、毎年陸上輸送会社ならびにローリー乗務員の無事故記録を表彰しています。2008年5月20日、2007年度陸上輸送無事故表彰式を開催しました。コスモ石油社長表彰として、6年間無事故継続会社7社、5年間無事故継続会社1社、20年間無事故継続乗務員8名を表彰し、同じく常務表彰として、15年間無事故継続乗務員25名を表彰し、表彰状と副賞を贈呈しました。また、2007年度より1年間無事故を継続した12事業所を紹介しました。

表彰式後は、記念講演として元日本航空パイロット・元航空自衛隊自衛官を迎えて「機長の仕事～安全への考察～」というテーマで講演をしていただきました。

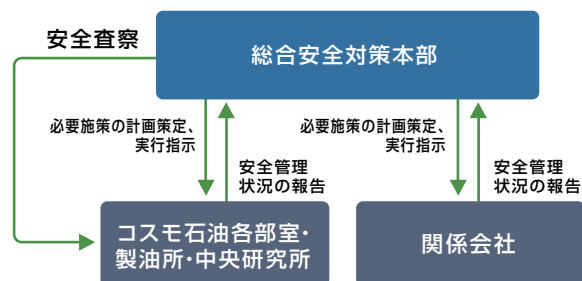
2008年度はさらに多くの運送会社に表彰式に参加していただけるよう、協力運送会社とともにより強固な安全体制を構築していきます。



陸上輸送無事故表彰式

第1次連結中期安全計画の取組みの柱、成果	
取組みの柱	成果
I. 安全管理体制の仕組み整備	製造部門、物流部門ではISO等を活用した安全管理システムの構築や月次目標管理を行うなど安全管理の仕組みを構築。
II. 潜在リスクの抽出・評価および低減	既存装置や作業の安全性評価・改善や、事例の水平展開強化など、各事業形態に合わせた活動を実施し潜在リスク低減を実現。
III. 危機管理体制の充実・強化	全事業所とも、大規模災害に備え、訓練の実施やマニュアルの整備等の取り組みを実施。特に大規模地震への対応は、事業継続計画(BCP)の中で、グループ全体で取り組み、体制やマニュアルを改善。
IV. 教育訓練の計画的実施	保安教育、防災訓練、危険予知活動、各種講習会/勉強会、啓発活動など各事業形態に合わせた教育訓練を計画的に実行しレベルアップを実現。

## 安全管理体制図



## MESSAGE

### 「自らの安全は自ら守る」 自主保安体制の下地を整えた一年

コスモ陸運(株) 代表取締役社長

### 市川 和登



コスモ陸運は従来、安全管理においては、各契約運送会社に個別の事項(研修、点検)を指導し、効果を上げてきました。2007年度はそれを一歩進めた、「自主保安体制」の下地づくりの年となりました。運送会社が自主的に、コスモ陸運の多様な要求事項を組み合わせた安全マネジメントシステムを確立し、実施し、維持していけるように、体制整備を支援しました。安全に対する社会の要求はますます強くなっています。これに応えるためにも、2008年度からの3年間で、自主保安体制を定着させていきます。